

2024年3月例会報告

1. 開催日： 2024年（令和6）3月31日（日曜日）13:30～15:30
2. 会場； 阿佐谷地域区民センター 第1集会室
3. 講師； 山田陽城氏 北里大学名誉教授
4. 講演テーマ；「現代医薬における漢方薬の役割」
5. 参加者： 小川(啓)、小川(俊)、石村、細越、矢口、柚木、高橋、松崎、小池、内田、堀越、宮崎、長谷川、高田、小高、後藤、非会員 12名、(講師含めて29名 敬称略)



山田 陽城先生

講演の内容

- ・冒頭、講師紹介および本月例会の開催までのいきさつを高田直子さんに話してもらいました。
- ・講演の内容は多岐に渡りかつ膨大なため、主だった点に絞り記しました。
- ・自然が生んだ薬は微生物(放線菌、カビ)からペニシリンやイベルメクチンなどの抗生物質や免疫抑制剤が発見され、植物からはサリチル酸などの解熱鎮痛薬、鎮咳剤、抗ガン剤等多くの医薬品が発見されてきました。これらの新薬に対し、主に植物由来の生薬から構成される漢方薬は我が国の医療に貢献してきました。新薬は基本的に1種の物質(成分)からなるが、漢方薬は複数の生薬を組み合わせ配合したもので、処方ごとに組み合わせの異なる混合物が薬物となっています。現在、医師の80%以上が漢方薬を治療に使用しているのが実状です。
 - * 生薬；薬用植物の葉、茎、根などや鉱物、動物のなかで薬効があるとされている部位を切る、乾燥する、蒸すなどの加工をしたもので医薬品です。日本で用いられている生薬は日本薬局方(医薬の規格についての公定書)で規格が法律で定められています。
 - * 漢方薬が必要とされる理由は、①現代医学は目覚ましい発展を遂げているが、新薬による治療だけでは限界がある、②新薬の副作用対策、③高齢者が多くなり、元気を取り戻すことが必要。
- ・漢方は蘭方(オランダ医学)に対応して命名されたもので、現代中国の中医学とも異なっている。
- ・漢方薬はどんな病気の改善が得意か⇒病名診断ではなくて患者の全身症状を診断し対応するのが本来のやり方。また、多くの病期は多因子疾患で、例としてはアトピー性疾患、認知症などが該当し漢方薬の出番となっています。
- ・現代医療では新薬と漢方薬をうまく使い分けていくことが重要です。抗ガン剤の強い副作用の軽減、後遺症の改善にも漢方薬が頻繁に用いられています。
- ・山田先生は早くから大村智教授に師事し、多くを学ばれたそうです。3ページに大村先生の活動の足跡、特にノーベル賞受賞について、山田先生の本講演時の発表資料に基づき紹介します。

(文；小川啓介、写真；宮崎、小川)

講演後、「漢方で治療するためにどこに行ったらよいか」との質問が多く寄せられ、下記を会員へ伝えて下さいとのことです。（山田先生より）

1. 北里大学漢方鍼灸治療センター（白金）漢方専門の医師による煎じ薬による本格的治療（保険はききませんがオーダーメイドの治療が受けられます）
2. 新宿つるかめクリニック つるかめ漢方センター 漢方専門の医師による保険診療での漢方治療（顆粒のお薬）
3. その他は日本東洋医学会のホームページにて地域ごとの漢方の専門医が判ります。お住いの近くの開業医も含め専門医が判ります。
4. 漢方専門薬局などきっちり相談が出来る薬剤師さんのいる薬局（漢方・生薬認定薬剤師の資格を持っている専門薬剤師がいるところ等）



▲講師紹介



▲講演風景


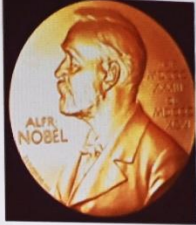


▲講演風景

大村智先生 ノーベル賞受賞

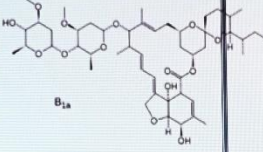
2015年ノーベル生理学・医学賞

(自然よりの恵み—寄生虫疾患の治療)

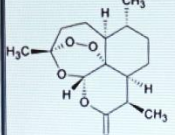
W.C.Campbell, 大村 智, Tu Youyou

イベルメクチン
(オンコセルカ症・フィラリア症治療薬)




B_{1a}

アルテミスニン
(マラリア治療薬)



B_{1b}



2015年ノーベル賞授賞式
(ストックホルム) 2015.12.10



▲ノーベル賞授賞式 センター位置大村教授



▲国王夫妻と記念写真

大村先生の素顔

「研究を経営する」

1. 研究者としての素顔 (常に新領域創生、実学)
2. 教育者としての素顔
3. 経営者としての素顔 (北里研究所、北里大学 女子美術大学、(学)開智学園)
4. 美術愛好家としての素顔 (葦崎大村美術館)
5. 郷里への思い (山梨科学アカデミー)
6. エッセイストとしての素顔
7. スポーツマンとしての素顔
8. 人間としての生き方、優しさと魅力



◀WHO 本部前の父子像